

標本作り



脚を広げた昆虫の標本作り～カブトムシ編～

4 脚の形を整える



ほとんどの昆虫が前脚は前へ、中脚と後脚は後ろ側へ向けて整えます。

1 脚や触角をひろげておく



5 触角の形を整える



2 昆虫針を刺す



昆虫針は昆虫の種類によって刺すところが決まっています。

6 2～3週間乾燥させる



3 平均台で高さをそろえる



※平均台とは、昆虫の体やラベルの高さをそろえる道具です

データラベルをつけて
標本の完成!

標本には「データラベル」をつけよう!

「いつ・どこ・だれ」が採集した昆虫であるかを誰が見てもわかるように明確に書くことが大切です。

ラベルの書き方
(日本語の場合)

採集したところ
採集した日
採集したひと

三重県津市一身田上津部田
2015年〇月〇日
〇〇〇〇 採集



標本にすることで、
昆虫のどんなことが
わかるのかな?



岡林 柊斗くん (小学6年生)
好きな昆虫: いろいろ



西川 充希くん (中学1年生)
好きな昆虫: カメムシの仲間



石井 匠くん (小学4年生)
好きな昆虫: ヒトスジシマカ

調査の結果をかたちにしよう

参加者がミュージアムフィールドの調査で採集した昆虫は、学芸員の指導を受けながら自分たちの手で標本にします。標本は博物館の資料として収められ、その一部が『みんなで作ろう!ミュージアムフィールドの实物昆虫図鑑』としてMieMuに展示されています。

当初は標本作りは未経験という子どもたちがほとんどでした。みんなで作った標本がたくさんの人々の目に触れる展示として活用されることは、参加者の意欲にもつながります。大島さんは「採集した昆虫の名前を調べたり、標本にしたりすることで生きものについて知っていき、自然の中の多様性を理解していくことにつながるのでは。」といいます。

博物館では標本の作り方の基礎を学ぶだけでなく、学術的に価値のある昆虫標本とはどんなものなのかということも教わってきました。採集した昆虫を標本にして残していくことで、その昆虫がその時そこにいたことがわかり、のちにその種の分布や地域による違いなどを知る重要な研究の資料となるのです。

そして平成27年3月に行われた『ミュージアム・パートナー成果発表会』では、みんなで調べた結果や昆虫標本を使って、それぞれが興味のあるテーマで研究した内容を発表しました。子どもたちは調査の感想として、自分が知らない昆虫を見たり、さわったりしたことが楽しかったと話しました。



『ミュージアム・パートナー成果発表会』での様子

発表:ミュージアムフィールドで確認したアカトンボの仲間



アキアカネは平地で羽化した後、避暑のために高い山へ移動して秋頃に平地へ帰ってきます。ミュージアムフィールドでは6・7月に見られたアキアカネは、夏の暑い時期には姿を消して、10月になると再び姿をあらわすことが調査によりわかりました。